

西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	20	事務事業名 (中事業名)		高齢者生活支援事業 (高齢者タクシー利用支援事業)					
予算科目	03	01	03	大事業	03	中事業	07	担当課名	長寿課
総合計画施策コード	-			事務開始年度	平成26年度		備考		
根拠法令等	-			作成月			令和元年7月		

事業の概要

●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	通院や買い物等に公共交通機関では不自由な高齢者の移動手段を確保するため
事業の対象 (誰(何)のために)	一定条件を満たした移動手段のない、75歳以上の高齢者世帯
事業の概要 (具体的に何を)	交通手段の確保が困難な高齢者が医療機関への通院や買い物等のためにタクシーを利用する場合に料金の一部を助成。1ヵ月あたり500円の補助券を3枚交付。

●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	4,968,162円	5,573,540円	6,115,000円	
事業にかかる人工	0.10人	0.10人	0.10人	
事業にかかる人件費②	710,461円	716,741円	723,422円	
総事業費③(①+②)	5,678,623円	6,290,281円	6,838,422円	
総事業費の内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	5,678,623円	6,290,281円	6,838,422円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	611,658円	H30 総事業費③の対前年度比率	10.77%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	地域包括支援センターに依頼しサービスを必要としている方々に周知をしたため、利用者が増えたと思われる			
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	扶助費	488人、11,368枚	5,534,040円	
	需用費	チケット用紙代	39,500円	

●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	タクシーチケット利用枚数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	6,240	枚	9,000	枚	12,150	枚
	実績値	10,115	枚	11,368	枚	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	タクシーチケット配布枚数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	6,240	枚	9,000	枚	12,150	人
	実績値④	13,520	枚	15,441	枚	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		420円		407円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	委託していない	委託の内容	-
事業の終了時期	-	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	-
事業の終了時期が未定の場合の理由	-		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評 価	評 価 項 目		評 価	評 価 項 目		評 価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
評 価	妥 当 性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	—	効 率 性	単位コストは、前年を下回っているか	○
		国・県・市・民間との役割は適切か	○		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	◎
		変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	○		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	—
		事業に対する市民ニーズを把握しているか	○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
	有 効 性	事業の目的は達成できているか	○	公 平 性	受益者に偏りはないか	◎
		事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	—
		事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	○		受益者負担の割合は適切か	—
		他市町村と比べて上位に位置しているか	○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント		公共交通機関だけではカバーできない高齢者の移動手段として利用された。				
事業の方向性	(評価)	3 今後は、内容を見直して事業を縮小する				
	(理由)	「いこまいかー」の利用先が、店舗や病院まで行けるように拡大されれば方向性が同じため、高齢者に限定されているこの事業は対象者の絞込等で縮小していく。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	市内の3事業者へ委託している。					
事業全体の課題	今後高齢者で自動車を運転する方が減少するであろうと予測されるので、対象者の大幅な増員があると考えられる。そうした場合の予算の抑制が課題。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	なし
---------------	----

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	いこまいかーやぐるりんバス等の利用率が上がり、高齢者も利用するようになれば、この事業の縮小も考えられる。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	公共交通事業者と連携し、高齢者の移動手段の確保に努めてください。また、総合計画における高齢者福祉の目指す姿に近づくように努めてください。
----------	--

西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	21	事務事業名 (中事業名)		敬老事業 ()					
予算科目	03	01	03	大事業	04	中事業	00	担当課名	長寿課
総合計画施策コード	434		事務開始年度		昭和38年度		備考		
根拠法令等							作成月	令和元年7月	

事業の概要

●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	長年にわたり社会の発展に貢献してきた高齢者を、敬愛し長寿を祝うため。
事業の対象 (誰(何)のために)	市内在住の高齢者
事業の概要 (具体的に何を)	<ul style="list-style-type: none"> 敬老金の支給 数え100歳以上：祝金10,000円+祝品、数え88歳：祝金10,000円 敬老事業委託料 代表町内会長に敬老事業を委託。78歳以上の高齢者1人当たり1,000円 敬老会開催補助金 敬老会開催地区に1人当り400円

●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	32,648,866円	31,409,209円	34,001,000円	
事業にかかる人工	0.30人	0.30人	0.30人	
事業にかかる人件費②	2,131,384円	2,150,222円	2,170,268円	
総事業費③(①+②)	34,780,250円	33,559,431円	36,171,268円	
総財源業内費 ③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	34,780,250円	33,559,431円	36,171,268円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	-1,220,819円	H30 総事業費③の対前年度比率	-3.51%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	委託料	18,038人×1,000円		18,038,000円
	記念品	950人×10,000円、119人×1,416円		9,688,500円
	補助金	9,166人×9,160人		3,666,400円

●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	敬老会対象者					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	17,438	人	18,038	人	19,000	人
	実績値	17,438	人	18,038	人	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	敬老事業委託金額					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	20,350,000		19,000,000	円	16,878,000	円
	実績値④	19,181,800	円	18,038,000	円	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
			2円		2円	*****	

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	全て委託している	委託の内容	敬老会事業
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	平成26年
事業の終了時期が未定の場合の理由	老人福祉法において、趣旨にふさわしい事業を実施するように努めるものとされているため。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		○	単位コストは、前年を下回っているか	◎	
	国・県・市・民間との役割は適切か		○	事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	◎	
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		○	委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○	
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○	事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○	
有効性	事業の目的は達成できているか		◎	受益者に偏りはないか	◎	
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		○	受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	-	
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		◎	受益者負担の割合は適切か	-	
	他市町村と比べて上位に位置しているか		○	サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎	
評価の総合的なコメント	事業の目標は達成できていた。					
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	事業を実施することは、地域住民との交流ができ、高齢者の孤独感を解消でき、引きこもり予防になり、介護予防に繋がる。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	地元の代表町内会長に委託を行っている。委託先の規模も適正と考えるため、現行通り実施予定。					
事業全体の課題	高齢者が増加するため、事業費が増大する。 高齢者が増加するため、敬老祝金等の配布に手間がかかる。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	敬老金品の支給方法や金額の見直しを行っている。 委託事業を、補助事業で行っている市もある。 一部事業は、社会福祉協議会が行っている。
---------------	--

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	平成30年度に敬老事業を継続する場合、代表町内会長に各町内会総意としてのアンケートを実施した結果。補助額は変更せず年齢を引き上げる見直しを希望した代表町内会が80%以上であったので、市民の意向に即した改善をする。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	今後の敬老事業の抜本的な見直しを継続的に行い、事業費の増大に対する適正な事業内容を検討してください。また、補助金等検討委員会からの意見をふまえて高齢者が活躍し、安心して暮らせる住まいづくりや地域で支えあって暮らせる環境になるよう進めてください。
----------	--